

平成 22 年度 とやま建設フォトコンテスト

総 評

昨年より大幅に応募数が増え、作品の技術的レベルも向上して完成度の高い作品が多く集まりました。上位の作品は、建設現場のまともにくい主体を、作者の工夫でインパクトのある作品に仕上げている点に感動しましたが、技量が伯仲しており、入賞作品の選定には審査員一同苦慮しました。また、作品の半数近くが新湊大橋の同一現場の写真で占められ、優秀作品に匹敵するのに入賞作品に加える事ができなかったことがとても残念でした。

入賞作品の順位については、撮られた作品からの訴える力、独創性、感動をどのように表現しているかを重要視して決めさせてもらいました。次年度からは、今年度の作品を下敷きにしないで、新しい被写体、違った表現方法を目指していただきたいと思います。



平成 22 年度とやま建設フォトコンテスト審査委員長
富山県写真連盟委員長 高橋 鐵夫

特選

「剣を望むクレーン」 高田 孝悦

雲と雪をまとった剣岳と、新湊大橋のシンボリックな二本の主体柱を画面中央に構成した作者の技量に感動する。望遠のレンズを使って剣岳と二本の主体柱を圧縮重複させることで、その建設工事のスケールの大きさと高さを幻想的に表現しており、また、縦写真でありながら、水平雲の存在と多数の飛び交う鳥の存在で左右方向に狭さを感じさせない効果があり、雲の暗雲で色調が抑えられて、とても印象的且つ格調高い作品に仕上げられている。

優秀賞 働く人部門

「今月中におわらんまいけ」 中田 篤

ワイドレンズを使用してタイル張り工事部分の奥行き全体を表現し、目地用モルタルを練る人、タイルを組み込む人、そして手前の作業者の目地洗い作業の様子を的確に捉えており、工事現場のきつい仕事の内容が伝わってきます。また、完成後にこの工事に携わった人たちは、辛かった作業よりも自分達の作った物づくりに対する誇りと、充実した満足感を持っていると感じます。



優秀賞 物部門

「無事故を願って」 上野 攻守

北陸新幹線の建設現場の作品のようですが、手前にほぼ完成している構造体、その先に等間隔に作られていく橋脚の様子が捉えられており、道路を挟んだ右側に林立するクレーンの支柱と、橋脚の外周に取り付けられた足場の対比が面白い。真夏の暑い空の下で資材を運ぶ黄色いヘルメットの作業員を配置したことで、とても印象的な作品になっている。



優秀賞 地域部門

「未来へつながる橋」 水野 敬雄

現在建設中の橋梁工事を遠景に、中景部に太平洋や日本海を過去に航行していた海王丸、前景に未来の日本を担う走る二人の子供を配置して、現在・過去・未来の構図が新鮮で面白く、逆光を意識してアンダーに撮ったことで、空や、海面の色彩がとても美しく表現されているし、走る子供たちをぶらしたことで躍動感のある素晴らしい作品になりました。

佳作「安全第一」 平野 稔

夕暮れの橋の上での撮影のようですが、逆光に近い被写体をうまく捉えており、工事中で誘導員の動きと、走る車の動きも効果的で、また、夕焼けの暮れゆく光景が美しく表現されている。



佳作「どこまでも」松谷 憲利

新幹線工事の橋梁を撮ったもののようですが、緩やかに曲線を描いてカーブする側面構成の作品であるが、垂直線の連続する橋脚と、湾曲する曲線の対比が面白い。ただ、露出を半絞りアンダーに撮ることで、空と橋梁部の質感が見えてきて、より魅力的な作品になったと思います。

佳作「雪どけをまちわびて」 富田 栄人

雪原に置かれた黄色い重機と、空に浮かんだ三個の白い風船の画面構成にうまさを感じる。ワイドレンズで存在感のある重機に撮り込み、雪解けを待ちわびている様子が見えてくる。



佳作「雪化粧」畑 まりな

雪原の中に一本のS字状の道路が作られ、その道路のあちこちに5台の重機が動きたそうに待機している面白い作品です。撮影場所がもう少し右に動けば、左側の立木と手前のわずらわしい枝を画面から外せたと思います。

第2回建設フォトコンテスト

募集時期 平成22年8月1日～9月30日

主催 (社)富山県建設業協会

後援 富山県、(独)雇用・能力開発機構富山センター、富山県建産連

応募点数 195点 入賞作品 8作品